

職業実践専門課程の基本情報について

学校名		設置認可年月日	校長名	所在地																										
北海道エコ・動物自然専門学校		平成10年4月1日	佐藤 俊	〒061-1373 恵庭市恵み野西5丁目10-4 (電話) 0123-36-2311																										
設置者名		設立認可年月日	代表者名	所在地																										
学校法人産業技術学園		昭和63年1月5日	宮川 藤一郎	〒061-1396 恵庭市恵み野北2丁目12-1 (電話) 0123-36-8119																										
分野	認定課程名	認定学科名		専門士	高度専門士																									
商業実務	商業実務専門課程	動物自然学科		平成6年文部科学大臣告示 84号																										
学科の目的	世界的な環境保全の高まりを背景に、動物・自然と共生していくことの重要性が再認識されています。北海道という急激に開発が進んだ地域特性を理解し、残る自然環境を維持保全し発展させる大志を持つ人材と、飼育動物を通じて生物多様性の重要性とそれを支える飼育繁殖技術を身につけた人材が求められています。また、それを表現し理解と共感を得るインタープリターであるネイチャーキーパーを育成します。																													
認定年月日	平成10年4月1日																													
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数	講義	演習	実習	実験																								
	2年	1890時間	660時間	600時間	630時間																									
単位時間																														
生徒総定員		生徒実員	留学生数(生徒実員の内)	専任教員数	兼任教員数	総教員数																								
160人		103人	1人	3人	16人	19人																								
学期制度	■前期:4月1日～9月30日 ■後期:10月1日～3月31日			成績評価	■成績表: 有 ■成績評価の基準・方法 定期試験・平常点評価 49点以下不合格、50点以上合格 A:80点以上、B:60点台、C:50点台、D:40点台、E:39点以下																									
長期休み	■学年始:4月1日 ■夏季:7月から9月までの間で6週間以内 ■冬季:12月から1月までの間で6週間以内 ■学年末:3月から4月までの間で5週間以内			卒業・進級条件	選択必修科目・自由選択科目のどれかを必ず選択し、履修することが、進級・卒業要件となり、進級・卒業認定は判定会議にて学校長が行う。																									
学修支援等	■クラス担任制: 有 ■個別相談・指導等の対応 1欠席ごとに電話連絡2欠席で保護者連絡			課外活動	■課外活動の種類 国内研修・学園祭 など																									
就職等の状況※2	■主な就職先・業界等(平成28年度卒業生) 動物園、水族館、牧場、ペットショップ			主な学修成果(資格・検定等)※3	■サークル活動: ■国家資格・検定/その他・民間検定等 (平成29年度卒業生に関する平成30年5月1日時点の情報)																									
	■就職指導内容 履歴書指導、身だしなみ、面接指導等				<table border="1"> <thead> <tr> <th>資格・検定名</th> <th>種</th> <th>受験者数</th> <th>合格者数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>愛玩動物飼養管理</td> <td>③</td> <td>48人</td> <td>48人</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>		資格・検定名	種	受験者数	合格者数	愛玩動物飼養管理	③	48人	48人																
	資格・検定名	種	受験者数		合格者数																									
	愛玩動物飼養管理	③	48人		48人																									
■卒業者数 95 人 ■就職希望者数 85 人 ■就職希望率 84 人 ■就職率 : 98.8 % ■卒業者に占める就職者の割合 : 95 %			※種別の欄には、各資格・検定について、以下の①～③のいずれかに該当する か記載する。 ①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの ②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの ③その他(民間検定等)																											
■その他 ・進学者数: 0人  (平成 29 年度卒業生に関する平成30年5月1日 時点の情報)			■自由記述欄 (例)認定学科の学生・卒業生のコンテスト入賞状況等																											
中途退学の現状	■中途退学者 9名 ■中退率 7.3 % 平成29年4月1日時点において、在学者 122名(平成29年4月1日入学者を含む) 平成30年3月31日時点において、在学者 113名(平成30年3月31日卒業生を含む) ■中途退学の主な理由 進路変更、経済的困窮、学校生活不適合 ■中退防止・中退者支援のための取組 1欠席ごとに電話連絡、面談の実施、保護者連絡、カウンセリング長期休み前後に面談																													
経済的支援制度	■学校独自の奨学金・授業料等減免制度: 有 ■専門実践教育訓練給付: 給付対象 給付金利用者: 0名 実績なし																													
第三者による学校評価	■民間の評価機関等から第三者評価: 無																													
当該学科のホームページURL	<a href="https://www.heco.ac.jp/department/trimmer/">https://www.heco.ac.jp/department/trimmer/</a>																													

1. 「専攻分野に関する企業、団体等(以下「企業等」という。)との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係															
(1)教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。)における企業等との連携に関する基本方針 業・業界の求める知識・技術が教育課程に反映されるように業界の動向に関して情報交換を行い、教育課程の改善および改定を定期的実施することを目的とする。															
(2)教育課程編成委員会等の位置付け 教育課程編成委員会は、教育課程の編成において企業・業界団体等の意見を活かし、必要となる最新の知識、技術を反映するための連携体制等を行う機関として活動し、職業教育の水準の維持向上を図り、実践的な職業教育を行うことを目的とする。 教育課程編成委員会後に北海道エコ・動物自然専門学校運営会議で審議され、再度、学科会議で審議内容、意見、要望等を再確認し教育へ反映される。															
(3)教育課程編成委員会等の全委員の名簿															
<table border="1"> <thead> <tr> <th>名前</th> <th>所属</th> <th>任期</th> <th>種別</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>桑山 未来</td> <td>登録マリンパークニクス 館長</td> <td>平成29年9月1日～平成31年8月31日</td> <td>①</td> </tr> <tr> <td>田中 秀俊</td> <td>田中動物病院 院長 胆振獣医師会 会長</td> <td>平成29年9月1日～平成31年8月31日</td> <td>③</td> </tr> </tbody> </table>				名前	所属	任期	種別	桑山 未来	登録マリンパークニクス 館長	平成29年9月1日～平成31年8月31日	①	田中 秀俊	田中動物病院 院長 胆振獣医師会 会長	平成29年9月1日～平成31年8月31日	③
名前	所属	任期	種別												
桑山 未来	登録マリンパークニクス 館長	平成29年9月1日～平成31年8月31日	①												
田中 秀俊	田中動物病院 院長 胆振獣医師会 会長	平成29年9月1日～平成31年8月31日	③												
<p>※委員の種別の欄には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。</p> <p>①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員(1企業や関係施設の役職員は該当しません。)</p> <p>②学会や学術機関等の有識者</p> <p>③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員</p>															
(4)教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期 年間開催数:2回 開催時期:7月及び2月  (開催日時) 平成29年度 第1回 平成29年8月30日 13:00～15:00 エコ図書室 平成29年度 第2回 平成30年2月10日 14:00～16:00 エコ図書室 平成30年度 第1回 平成30年10月3日 11:00～12:00 エコ図書室 平成30年度 第2回 平成31年2月開催予定															
(5)教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況 カリキュラム構築においての社会的要望、業界的要望を反映させる為、業界の第一線企業との連携を図る。編成委員会と共に随時カリキュラム評価を行い、学生授業アンケート、第三者評価をもとに企業、業界からヒアリングし、再度、編成委員会会議にて議論し見直す。また、外部委員より業界実務実習において企業、職種、時期の選定に再考の余地が指摘され、今年度1年次実施の業界実務実習Ⅰの実習地及び企業の見直しを行い実施する。															
2. 「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習(以下「実習・演習等」という。)の授業を行っていること。」関係															
(1)実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針 動物園や牧場等の研修に参加することで、業界を知る機会とし、また、実際に各業界へ約2週間にわたり業界研修に行くことにより、日々進化する最新の技術知識を肌で感じる機会を設け、その後の授業において、研修での経験を活かし即戦力となる人材の育成を目指すとともに、動物に携わる者としての基本的精神を養う															
(2)実習・演習等における企業等との連携内容 現場実習を通じ、企業・業界の第一線で活躍する方々からの直接指導をいただき、将来の夢を現実のものへと意識を具体化する。さらに、一人一人の評価表をいただき達成できていない項目に関しては引き続き学校での指導とする。															
(3)具体的な連携の例※科目数については代表的な5科目について記載。															
<table border="1"> <thead> <tr> <th>科目名</th> <th>科目概要</th> <th>連携企業等</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>業界研修</td> <td>連携した企業・施設で研修を行い日々変化する業界の技術や知識指導を受け学ぶ</td> <td>那須どうぶつ王国、神戸どうぶつ王国、ノーザンファーム、</td> </tr> </tbody> </table>				科目名	科目概要	連携企業等	業界研修	連携した企業・施設で研修を行い日々変化する業界の技術や知識指導を受け学ぶ	那須どうぶつ王国、神戸どうぶつ王国、ノーザンファーム、						
科目名	科目概要	連携企業等													
業界研修	連携した企業・施設で研修を行い日々変化する業界の技術や知識指導を受け学ぶ	那須どうぶつ王国、神戸どうぶつ王国、ノーザンファーム、													
3. 「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係															
(1)推薦学科の教員に対する研修・研究(以下「研修等」という。)の基本方針 在籍している学生たちも多様化しており一人一人を入学から卒業・就職まで導くために、職員それぞれがカウンセリングマインドを持つことが必要とされている。そのために指導と教授力の向上カウンセリング力の向上を目的とする。また、専門技術知識を伝えるに当たり常に業界の新しい情報を入手し、知識技術の向上を図る必要があり、常に研鑽を続けることを目的とする															
(2)研修等の実績 ①専攻分野における実務に関する研修等 平成30年3月7日・8日 日本飼育技術学科 学科長1名参加 ②指導力の修得・向上のための研修等 平成30年3月26日北海道専修学連動物部会教員研修 学科長1名 担当教															
(3)研修等の計画 ①専攻分野における実務に関する研修等 平成31年3月予定 日本飼育技術学科 学科長1名 担当教員1名 ②指導力の修得・向上のための研修等 平成31年3月予定 北海道専修学連動物部会教員研修 学科長1名 担当															
4. 「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係															
(1)学校関係者評価の基本方針 日々の学校運営については学内の学校長、副校長、教務部長、部門長の会議である「運営会議(定例会毎月2回)」にて運営の見直し並びに次年度事業計画修正への検討を行っている。また、学校関係者評価委員会で得られた外部評価における意見や提案はその内容を検討し12月には改善計画を含めた事業計画を策定している。自己点検自己評価については、年度修了後に「計画」「実践」「評価」の一連の評価を行うために、学校評価ガイドラインに設定した目標や、具体的な計画の実践状況について学校評価委員会を開催し自己評価点検を実施し学校関係者評価との連動により学校運営に活用している。一方教育活動については教務部長ならびに学科長で構成される学内組織である「教育改革委員会(定例会															

「月1回開催」にて問題の検討や計画の修正等を検討し、年2回の教育課程編成委員会への報告により毎年次年度カリキュラムへ反映し日々の授業運営の改善に取り組んでいる。

(2)「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応			
ガイドラインの評価項目		学校が設定する評価項目	
(1)教育理念・目標		<ul style="list-style-type: none"> <li>・理念・目的・育成人材像は定められているか</li> <li>・学校の特色は何か</li> <li>・学校の将来構想を抱いているか</li> </ul>	
(2)学校運営		<ul style="list-style-type: none"> <li>・運営方針は定められているか 2-5事業計画は定められているか</li> <li>・運営組織や意思決定機能は効率的なものになっているか</li> <li>・人事や賃金での処遇に関する制度は整備されているか</li> <li>・意思決定システムは確立されているか</li> <li>・情報システム化などによる業務の効率化が図られているか</li> </ul>	
(3)教育活動		<ul style="list-style-type: none"> <li>・各学科の教育目標、育成人材像はその学科に対応する業界の人材ニーズに向けて正しく方向づけられているか</li> <li>・修業年限に対応した教育到達レベルは明確にされているか</li> <li>・カリキュラムは体系的に編成されているか</li> <li>・学科の各科目はカリキュラムの中で適正な位置づけをされているか</li> <li>・キャリア教育の視点にたったカリキュラムや教育方法などが実施されているか</li> <li>・授業評価の実施・評価体制はあるか</li> <li>・育成目標に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか</li> <li>・教員の専門性を向上させる研修を行っているか</li> <li>・成績評価・単位認定の基準は明確になっているか</li> <li>・資格取得の指導体制はあるか</li> </ul>	
(4)学修成果		<ul style="list-style-type: none"> <li>・就職率(卒業者就職率・求職者就職率・専門就職率)の向上が図れているか</li> <li>・資格取得率の向上が図れているか</li> <li>・退学率の低減が図られているか</li> <li>・卒業生・在校生のの社会的な活躍及び評価を把握しているか</li> </ul>	
(5)学生支援		<ul style="list-style-type: none"> <li>・就職に関する体制は整備されているか</li> <li>・学生相談に関する体制は整備されているか</li> <li>・学生の経済的側面に対する支援体制は整備されているか</li> <li>・学生の健康管理を担う組織体制はあるか</li> <li>・課外活動に対する支援体制は整備されているか</li> <li>・学生寮等、学生の生活環境への支援は行われているか</li> <li>・保護者と適切に連携しているか</li> <li>・卒業生への支援体制はあるか</li> </ul>	
(6)教育環境		<ul style="list-style-type: none"> <li>・施設・設備は教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか</li> <li>・学外実習、インターンシップ、海外研修などについて十分な教育体制を整備しているか</li> <li>・防災に対する体制は整備されているか</li> </ul>	
(7)学生のお受け入れ募集		<ul style="list-style-type: none"> <li>・学生募集活動は適正に行われているか</li> <li>・学生募集において教育成果は正確に伝えられているか</li> <li>・入学選考は適正かつ公平な基準に基づき行われているか</li> <li>・学納金は妥当なものとなっているか</li> </ul>	
(8)財務		<ul style="list-style-type: none"> <li>・中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか</li> <li>・予算収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか</li> <li>・財務について会計監査が適正に行われているか</li> <li>・財務情報公開の体制整備は出来ているか</li> </ul>	
(9)法令等の遵守		<ul style="list-style-type: none"> <li>・法令、設置基準などの遵守と適正な運営がなされているか</li> <li>・個人情報に関しその保護のための対策が取られているか</li> <li>・自己点検・自己評価の実施と問題点の改善に努めているか</li> <li>・自己点検自己評価結果を公開しているか</li> </ul>	
(10)社会貢献・地域貢献		<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校の教育資源や施設を活用した社会貢献を行っているか</li> <li>・学生のボランティア活動を奨励、支援しているか</li> </ul>	
(11)国際交流		<ul style="list-style-type: none"> <li>・グローバル人材の育成に向けた国際交流などの取り組みを行っているか</li> </ul>	
※(10)及び(11)については任意記載。			
(3)学校関係者評価結果の活用状況			
<p>自己点検自己評価については、「計画」「実践」「評価」の一連のサイクルを行うために、学校評価ガイドラインに設定した目標や、具体的な計画の実践状況について学校評価委員会を開催し懇談を通じての意見や要望を聴取する。聴取した内容は、学校運営に関する事項は、学内の学校長、副校長、教務部長、部署長の会議である「運営会議(定例会毎週1回)」にて運営の見直し並びに次年度事業計画修正への検討を行い12月には改善計画を含めた事業計画を策定する。一方教育活動については教員及び学科長で構成される学内組織である「教育改革委員会(定例会月1回開催)」にて検討し、1月には次年度カリキュラムの改定にむけての検討ならびに日々の授業運営の改善を実施している。</p>			
(4)学校関係者評価委員会の全委員の名簿			
平成29年9月1日現在			
名前	所属	任期	種別
佐藤 翔太	北海道造園コンサルタント 副館長	平成29年9月1日～平成31年8月30日(2年)	卒業生代表

若山 英史	学生の保護者	平成30年7月1日～平成31年8月30日(1年)	保護者代表
高橋 守	北海道恵庭北高等学校 進路指導部長	平成30年7月1日～平成31年8月30日(1年)	高等学校関係者
山田 裕一郎	山田アートフィルム	平成29年9月1日～平成31年8月30日(2年)	地域関係者
近藤 幸司	よつば動物病院 医院長	平成29年9月1日～平成31年8月30日(2年)	業界関係者
吉田 俊介	株式会社ノーザンホースパーク 取締役	平成29年7月1日～平成31年8月30日(2年2ヶ月)	業界関係者
樋原 均	株式会社ベットハウステン・テン 代表取締役	平成29年7月1日～平成31年8月30日(2年2ヶ月)	業界関係者

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。  
(例)企業等委員、PTA、卒業生等

(5)学校関係者評価結果の公表方法・公表時期 平成30年9月

ホームページ・広報誌等の刊行物・その他( ) )

<https://www.heco.ac.jp/disclose-information/>

5.「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

(1)企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針

企業等の学校関係者に対しては、業界視点を越えた教育施設としての社会活動からの評価視点を得ることが出来るため、これらを学校教育の客観的な評価、運営での業界目線、地域目線、保護者目線、卒業生目線、そして行政目線から第三者の外部評価と意見をいただく委員会として位置づけをしている。したがって、その情報提供は、学科ごとに設けた教育課程編成委員からの教育評価や産学連携、業界連携についての報告を密に行うとともに、入学式、実習報告会、懇談会、研究発表会、学園祭、卒業式等の行事にも委員の出席をいただき、学園の生の活動の理解を得る機会を持つように心がけとともに、ホームページを通じて積極的に学校情報を発信し、学校の運営状況について知っていただく機会を持つ努力と教育施設としての水準の向上に努めている。

(2)「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
(1)学校の概要、目標及び計画	(1)学校の概要、目標及び計画
(2)各学科等の教育	(2)各学科等の教育
(3)教職員	(3)教職員
(4)キャリア教育・実践的職業教育	(4)キャリア教育・実践的職業教育
(5)様々な教育活動・教育環境	(5)様々な教育活動・教育環境
(6)学生の生活支援	(6)学生の生活支援
(7)学生納付金・修学支援	(7)学生納付金・修学支援
(8)学校の財務	(8)学校の財務
(9)学校評価	(9)学校評価
(10)国際連携の状況	(10)国際連携の状況
(11)その他	(11)その他

※(10)及び(11)については任意記載。

(3)情報提供方法

情報提供はHPにて公開をしている

自己点検自己評価による  
新しいのをアップしたアドレス

別紙様式4  
新しいのをアップしたアドレス

法人決算書及び監査報告書  
[https://www.heco.ac.jp/resources/pdf/info\\_01.pdf?v2](https://www.heco.ac.jp/resources/pdf/info_01.pdf?v2)  
[https://www.heco.ac.jp/resources/pdf/info\\_02.pdf?v2](https://www.heco.ac.jp/resources/pdf/info_02.pdf?v2)

学校関係者評価委員会報告書  
新しいのをアップしたアドレス

学校関係者評価結果及び改善方策  
新しいのをアップしたアドレス

授業科目等の概要

(商業実務専門課程動物自然学科) 平成30年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			講読演習Ⅰ	社会の仕組みや就職する上での心構え、動物・自然業界の現状などを学びます。	1前	30	1	○			○				
○			講読演習Ⅱ	社会の仕組みや就職する上での心構え、動物・自然業界の現状などを学びます。	1後	30	1	○			○				
○			講読演習Ⅲ	社会の仕組みや就職する上での心構え、動物・自然業界の現状などを学びます。	2前	30	1	○			○				
○			マナー講座	社会人として必要な、挨拶、対人スキル、電話対応など一般的な常識を学びます。	1後	30	1		○		○			○	
○			環境教育論Ⅰ	動物・自然の魅力を伝える手技及び表現力と、豊かな人間性を育みます。	1前	30	1		○		○				○
○			環境教育論Ⅱ	動物・自然の魅力を伝える手技及び表現力と、豊かな人間性を育みます。	1後	30	1		○		○				○
○			環境教育論Ⅲ	動物・自然の魅力を伝える手技及び表現力と、豊かな人間性を育みます。	1前	30	1		○		○				○
○			プレゼンテーション演習Ⅰ	2年間の集大成として、論文作成または卒業制作に取り組み、成果を公表します。	2前	30	1		○		○			○	
○			プレゼンテーション演習Ⅱ	2年間の集大成として、論文作成または卒業制作に取り組み、成果を公表します。	2後	120	4		○		○			○	
○			生物学Ⅰ	生命科学の基本である生物のしくみを学びます。	1前	60	4	○			○				○
○			生物学Ⅱ	生命科学の基本である生物のしくみを学びます。	1後	60	4	○			○				○
○			生態学Ⅰ	野生動物が生活している環境を知り、環境が動物に与える影響を学ぶ	1前	30	2	○			○				○
○			生態学Ⅱ	野生動物が生活している環境を知り、環境が動物に与える影響を学びます。	1後	30	2	○			○				○
○			保全生物学Ⅰ	人間活動が種・群集・生態系に与える影響を学びます。	2前	30	2	○			○				○
○			保全生物学Ⅱ	人間活動が種・群集・生態系に与える影響を学びます。	2後	30	2	○			○			○	
○			生物分類学概論	生物の基本的な分類をその性質に基づき分け、その分類法と規則について学びます。	1前	30	2	○			○			○	
○			両生爬虫類学Ⅰ	変温動物である脊椎動物の生物学的見地から分類・分布・生理・生態まで幅広く学びます。	1後	30	2	○			○				○
○			両生爬虫類学Ⅱ	変温動物である脊椎動物の生物学的見地から分類・分布・生理・生態まで幅広く学びます。	2前	30	2	○			○				○
○			インタープリテーションⅠ	身に付けた知識・技術をアウトプットする手技を学びます。	1前	30	1		○		○				○
○			インタープリテーションⅡ	身に付けた知識・技術をアウトプットする手技を学びます。	1後	30	1		○		○				○
○			業界実務実習Ⅰ	ガイド・調査・飼育等の自然動物に実践的に関わる技術を身につけます。	2前	90	2			○		○			○
○			業界実務実習Ⅱ	ガイド・調査・飼育等の自然動物に実践的に関わる技術を身につけます。	2前	90	2			○		○			○
	○		飼育実習Ⅰ	実際に動物を飼育し、実践的に学びます。	1前	180	4				○	○			○
	○		飼育実習Ⅱ	実際に動物を飼育し、実践的に学びます。	1後	180	4				○	○			○
	○		飼育実習Ⅲ	実際に動物を飼育し、実践的に学びます。	2後	180	4				○	○			○
		○	飼育実習Ⅳ	実際に動物を飼育し、実践的に学びます。	2後	180	4				○	○			○
	○		動物飼育講座Ⅰ	エキゾチックアニマルや、動物園動物の飼育管理や調教を学びます。	1前	30	1		○		○				○

	○	動物飼育講座Ⅱ	エキゾチックアニマルや、動物園動物の飼育管理や調教を学びます。	1後	30	1		○	○	○				
	○	動物飼育講座Ⅲ	エキゾチックアニマルや、動物園動物の飼育管理や調教を学びます。	1後	30	1		○	○	○				
	○	畜産学	産業動物（牛、馬、羊、豚）の飼養管理や用途、歴史について学びます。	1後	30	1		○	○					
	○	動物飼料学	栄養の基礎、食生活の重要性、処方食まで、適切な栄養管理について学びます。	1後	30	1		○	○					
	○	繁殖学	生殖に関する生理解剖および産前産後の母体および産仔の管理とその実践を学びます。	2前	30	1		○	○					
	○	アニマルトレーニング論	学習理論を用いた、様々な動物のトレーニング法を学びます。	1後	30	1		○	○					
	○	霊長類学	霊長類特に類人猿の生態学、行動学から飼育繁殖まで、幅広く学びます。	1後	30	1		○	○					
	○	動物園学Ⅰ	動物園の役割と社会的意義、教育施設としての効果、過去と現在の日本人の動物園観を学びます。	2前	30	1		○		○				
	○	動物園学Ⅱ	動物園の役割と社会的意義、教育施設としての効果、過去と現在の日本人の動物園観を学びます。	1後	30	2	○		○					
	○	獣医学概論	発病のメカニズムと病理学的特徴を理解する。	2前	30	1		○		○				
	○	動物薬理学	薬の作用機序と有害作用並びに、獣医療現場で使用される主な薬剤の特性を理解し、薬剤を正しく扱えることを目指す。	2前	30	2	○		○					
	○	犬学	イヌの性質、家畜化の歴史、犬種特異性、行動学の基礎を学びます。	1前	30	1		○	○					
	○	動物行動学	動物を理解し、確実に扱うために必要な行動や習性について学びます。	2前	30	1		○	○					
	○	解剖学Ⅰ	動物の解剖生理について、講義演習形式で学びます。	1前	60	2		○	○					
	○	解剖学Ⅱ	動物の解剖生理について、講義演習形式で学びます。	1後	60	2		○	○					
	○	衛生学	動物の疾病、予防、細菌、菌、ウィルスなどの生態を学びます	2前	30	1		○	○					
	○	馬学	馬の解剖、生理、生態、体の名称、馬事、歴史などを学びます。	2後	30	1		○						
	○	海洋生物学Ⅰ	海洋生態系の構造と機能及び、生物多様性と海洋生物の分類、形態、生活史、生理、生態、進化を学びます。	1後	30	2	○		○					
	○	海洋生物学Ⅱ	海洋生態系の構造と機能及び、生物多様性と海洋生物の分類、形態、生活史、生理、生態、進化を学びます。	2前	30	2	○		○					
	○	生物分類学Ⅰ	生物の基本的な分類をその性質に基づき分け、その分類法と規則について学びます。	1前	30	2	○		○					
	○	生物分類学Ⅱ	生物の基本的な分類をその性質に基づき分け、その分類法と規則について学びます。	1後	30	2	○		○					
	○	動植物基礎講座Ⅰ	動植物に関する基礎的知識を学びます。	1前	30	1		○						
	○	動植物基礎講座Ⅱ	動植物に関する基礎的知識を学びます。	1後	30	1		○						
	○	動植物基礎講座Ⅲ	動植物に関する基礎的知識を学びます。	2前	30	1		○						
	○	動植物基礎講座Ⅳ	動植物に関する基礎的知識を学びます。	2後	30	1		○						
	○	動植物講座Ⅰ	動植物の探し方、特徴、同定方法を学び、各相への理解を深めます。	1前	30	1		○						
	○	動植物講座Ⅱ	動植物の探し方、特徴、同定方法を学び、各相への理解を深めます。	1後	30	1		○						
	○	動植物講座Ⅲ	動植物の探し方、特徴、同定方法を学び、各相への理解を深めます。	2前	30	1		○						
	○	動植物講座Ⅳ	動植物の探し方、特徴、同定方法を学び、各相への理解を深めます。	2後	30	1		○						
	○	フィールドワーク演習Ⅰ	業界人として必要な知識やスキルを実践的に習得します。	1前	60	2			○					
	○	フィールドワーク演習Ⅱ	業界人として必要な知識やスキルを実践的に習得します。	1後	60	2			○					

<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	ナチュラルヒ ストリーⅠ	業界人として必要な知識やスキルを実践的に 習得します。	2 前	30	1			<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>	
<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	ナチュラルヒ ストリーⅡ	業界人として必要な知識やスキルを実践的に 習得します。	2 前	30	1			<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>	
<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	実践トレーニ ングⅠ	業界人として必要な知識やスキルを実践的に 習得します。	1 前	90	2			<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>	
<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	実践トレーニ ングⅡ	業界人として必要な知識やスキルを実践的に 習得します。	1 後	90	2			<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>	
<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	実践トレーニ ングⅢ	業界人として必要な知識やスキルを実践的に 習得します。	2 前	90	2			<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>	
<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	実践トレーニ ングⅣ	業界人として必要な知識やスキルを実践的に 習得します。	2 後	90	2			<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>	
合計		40～44 科目		1890時間以上（76単位以上）								

卒業要件及び履修方法		授業期間等	
		1 学年の学期区分	2 期
		1 学期の授業期間	1 5 週

(留意事項)

- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合
- 2 企業等との連携については、実施要項の3（3）の要件に該当する授業科目について○を付すこと。